

グループワークについて

1. 目的

第2次計画の推進にあたり、行政・関係団体が取り組むべき内容について共有・議論し、それぞれが「自分事」として考え、検討することで、第2次計画をより実効性のある計画とする。

2. 前回の協議会（R7年3月開催）での検討結果および関係団体・主任との合同ワークショップでの検討結果のまとめ（R7年5月開催）

○前回の協議会検討後の結果も踏まえ「行政・関係団体がやるべきこと」について具体化

A グループ テーマ：「重点的な取組地域での健康づくりの推進について」

協議会（R7年3月開催）での検討結果

- ・社会資源の把握（場所の提供や、教えられることなど）
- ・社会資源とやりたいことのマッチングが行える場の提供
- ・ニーズの把握（色々な場に出てこれられない人も含めて、やってみたいことの確認）
- ・自分達で「できる」をどう支えていくか

合同ワークショップ（R7年5月開催）での検討結果

- ・「きょうと健康づくり実践企業認証制度」を槇島圏域の企業や団体が率先して取得
- ・槇島地区はそれぞれ特色があり、各エリア別の取組を考える必要がある
- ・学区運営協議会やPTA、地域団体など地域のキーマンと協働
- ・親世代の健康意識が低いと子どもに影響するため、親子での意識改革が必要

B グループ テーマ：「働き盛り世代の健康づくりについて」

協議会（R7年3月開催）での検討結果

- ・身近な場所で健康測定や相談ができる場（まちなかの保健室）
- ・企業に出向き、健康測定や健康相談などで働き盛り世代の健康意識を高める
- ・働き世代が健康であるためには幼児～高校生までの教育が大切（プレコンセプションケア）
- ・高校生、大学生などプレ社会人への教育の実施
- ・健康的なメニューを提供する飲食店を増加させる

合同ワークショップ（R7年5月開催）での検討結果

- ・インセンティブのあるアプリ運営
- ・企業のトップが健康を推進していく（健康経営の推進）
- ・気軽に保健師や栄養士などに相談できる場づくり
- ・地域での体操、運動教室など、つながりづくりができる場
- ・適塩やカロリーが少なくおいしい飲食店の増加
- ・健（検）診受診の必要性について普及啓発

C グループ テーマ：「人とつながりたくなる場づくりや仕組みづくりについて」

協議会（R7 年 3 月開催）での検討結果

- ・健康格差を広げないためにも、情報をキャッチしにくい人が情報を得ることができるような仕組みづくりが必要
- ・世代をまたいだ交流の場づくりが必要ではないか（今ある場所の活用）
- ・つながりづくりの情報集約を行う
- ・ニーズに沿った企画立案が大切

合同ワークショップ（R7 年 5 月開催）での検討結果

- ・育てる、食べる、作る を一連した体験
- ・五感を通した豊かな活用
- ・対象者を低年齢にすると親と一緒に参加でき交流ができる
- ・将来に向けた健康づくりや学校では教えてくれない性教育など（プレコンセプションケア）
- ・外出が難しい人、皆で集うことが苦手な人が自宅のできる ICT を活用した仕組みづくり
- ・小中学校給食での地域食材を使った献立、楽しく食べる機会
- ・小学校区でのイベントや地域イベントを開催してつながれる機会をつくる
- ・いい塩梅での適度なお節介が大切

3. 本日のグループワークの内容

○合同ワークショップで出た意見を基に、「優先的に取組むべき内容」を検討し、ロジックモデルを具体化する。

テーマ

A グループ（健康格差の縮小グループ）

テーマ：「重点的な取組地域での健康づくりの推進について」

検討内容：ロジックモデル⑤のやるべきこと（取組）の優先的取組み内容を検討

B グループ（職域（企業）との連携グループ）

テーマ：「働き盛り世代の健康づくりについて」

検討内容：ロジックモデル①～③のやるべきこと（取組）の優先的取組み内容を検討

C グループ（つながりグループ）

テーマ：「人とつながりたくなる場づくりや仕組みづくりについて」

検討内容：ロジックモデル④のやるべきこと（取組）の優先的取組み内容を検討

検討内容

○合同ワークショップで出た意見を基に、行政・関係団体が次年度以降、「優先的に取り組むべき内容」を検討し、ロジックモデルを具体化する。